

教職課程における情報の公表

1. 教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画に関すること

教員養成の目標

知 社会生活に必要な教養と保育者としての確かな知識を身につける。

情 豊かな感性と愛の心を育てる。

意 自分を知り、自らの人生を選び取る意志の力を育てる。

体 健全な心と丈夫な体を育て、規則正しい生活習慣を身につける。

技 保育者としての実践的な技能を身につける。

女子の活躍できる社会の到来を願い、創立者はキリスト教の精神である「愛の教育」を主軸において、幼児教育者の養成を目的として昭和 43 年に短期大学を設立した。以来、幼稚園教諭免許状と保育士資格の両方の取得をめざしたカリキュラムを構築している。幼児に愛情を注ぎ、奉仕の精神で社会と関わり、専門的な指導や支援ができる人材を約半世紀にわたり育成し、社会でも家庭でも自分らしく生きられる女性を送り出している。

本学では、急速なグローバル化への対応が求められている日本の保育・幼児教育において未来の“グローバル市民”を育む乳幼児教育者の養成にも力を入れるため、平成 29 年度に学科名を国際こども教育学科に改め、履修上の区分として学科内に「こども教育コース」「国際こども教育コース」を設置した。同時に専攻科「国際こども教育専攻」を新設している。多言語・多文化を理解し、多様性を受容・発展させられる国際感覚豊かな教員を養成することを新たに加え、目標としている。

さらに、令和 2 年 4 月より、乳幼児教育の現場の多文化化において愛情をもって子どもの最善の利益を保障できる乳幼児教育者を養成するための教育・研究機関として、「フェリシアこども短期大学」と名称を変更した。

目標を達成するための計画

<学期別の計画>

1年前学期

- ・建学の精神に基づき、教育・保育についての理念と基礎理論を学ぶ。
- ・保育の本質および目的と保育者の役割について理解する。
- ・現代の教育に関わる基礎的事項についての知識・理解を得るとともに、その問題について、自分で考える力を身につける。

1年後学期

- ・教育・保育課程の意義と基礎理論、指導方法、技法編成の方法を理解する。
- ・教職に関する理解を深め、教職への志向と一体感の形成を図る。
- ・乳幼児の心身の健康や発達について理解し、応用できる。

- ・園の役割と職務の基本を体験的に理解している。
- ・他国の文化に目を向け、日本との違いを学び、広い視野を養う。

2年前学期

- ・社会生活に必要な教養と責任を持って教育・保育実践できる能力を身につける。
- ・こどもを理解する視点を養い、こどもの生活に則した保育を構想することができる。
- ・実習を通じて保育者としての使命や倫理観を養うとともに、乳幼児理解を深める。今後の課題や目標を明確にできる。
- ・多文化共生社会の中で求められる乳幼児教育・保育の知識を身につける。
- ・乳幼児期からのESDについて理解を深める。

2年後学期

- ・こどもの育ちや学びの連続性（幼保小連携）を理解する。
- ・保育を主体的に考え、地域や社会に積極的に貢献できる。
- ・こどもの最善の利益を尊重し、常に愛情をもって他者に奉仕することができる。
- ・自己肯定感を持つのと合わせて、自分を客観的に見つめなおし、学び続ける姿勢を持つことができる。
- ・さまざまな違いを認めあい、すべてのこどもが自分らしく生きるために必要な力を身につけるための保育のあり方を探求する。

<到達目標>

教育・保育の本質と目的に関する科目

教育や保育の理念、本質を理解していくとともに幼稚園教諭と保育士の役割と責務、専門性と制度的位置づけの理解を深める。保育・教育職について理解し、実践に必要な知識と技術を身につける。

対象科目

教育原理 教職概論 保育原理 保育者論 幼児と環境 幼児と人間関係 社会福祉
こども家庭福祉 社会的養護Ⅰ 幼児と表現 幼児と言葉 幼児と健康 こども家庭支援論

人間の理解に関する科目

こどもの理解および学習の課程と心身の発達、健康について学ぶ。

対象科目

子どもの保健 保育の心理学 子ども家庭支援の心理学 子ども理解と相談・援助
子どもの食と栄養 乳幼児と脳科学

世界の教育・保育に関する科目

未来のグローバル市民を育成できる能力を有する国際感覚豊かな乳幼児教育者になるため、日本や世界の乳幼児教育に関する専門知識と方法を学ぶ。

対象科目

国際こども教育概論 比較乳幼児教育論 異文化コミュニケーション演習 比較こども文化演習

表現技術・基礎技能に関する科目

こどもの「思い」を生かし、豊かな表現力を引き出すことへの理解を深める。こどもの表現を様々な視点でとらえ、表現力を豊かにする遊びを促す技能を身につける。

対象科目

幼児音楽入門（ピアノ） 幼児音楽Ⅰ 幼児音楽Ⅱ 幼児音楽Ⅲ 幼児音楽Ⅳ 幼児造形Ⅰ
幼児造形Ⅱ 幼児教育と情報機器演習Ⅰ 幼児教育と情報機器演習Ⅱ 声楽Ⅰ 声楽Ⅱ
幼児体育Ⅰ 幼児体育Ⅱ

言語に関する科目

教育・保育現場において日本語及び外国語（英語）での円滑なコミュニケーションができることを目指す。

対象科目

文章表現法 英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 保育英語Ⅰ 保育英語Ⅱ 保育英語Ⅲ English ConversationⅠ English ConversationⅡ 留学英語準備講座 Intensive EAL 言語教育と幼児教育

教育・保育の内容・方法に関する科目

こどもの遊びを通しての指導、働きかけの意味を学び、理解を深める。更にはこどもの発達段階に応じた指導計画を立案し実践する力を身につける。

対象科目

保育内容総論 乳児保育Ⅰ 自然遊びと生活環境保全Ⅰ 自然遊びと生活環境保全Ⅱ 乳児保育Ⅱ 特別支援教育（障害児保育）Ⅰ 特別支援教育（障害児保育）Ⅱ 教育課程総論（保育の計画と評価） 保育内容（環境）の指導法 保育内容（人間関係）の指導法 保育内容（健康）の指導法 保育内容（言葉）の指導法 保育内容（表現）の指導法Ⅰ 保育内容（表現）の指導法Ⅱ 子育て支援 社会的養護Ⅱ 子どもの健康と安全 保育・教育方法技術論 社会的養護Ⅱ 保育内容特論 教育の基礎理論

実習・実践・研究に関する科目

実際の教育・福祉現場にてこどもと接し、保育者としての実践力を高める。教育・保育現場の課題を解決するために主体的に行動し、地域に貢献できる力を養う。専攻科では課題を考察・探究する手法を学ぶ。

対象科目

保育実習指導Ⅰ（保）（通）

海外フィールドワークⅠ 海外フィールドワークⅡ 保育実習指導Ⅰ（保） 保育実習Ⅰ（保育所） 保育実習指導Ⅰ（施） 保育実習Ⅰ（施設） 教育実習指導 教育実習 保育実習指導ⅡまたはⅢ 保育実習ⅡまたはⅢ 保育・教職実践演習（幼）

教養に関する科目

建学の精神である「愛の教育」を基に、豊かな感性を養い、短大で学ぶことの意義を理解する。職場や地域社会、国際社会で多様な人々と関わるために必要な幅広い教養や基礎的なスキルを身につける。

対象科目

日本国憲法 キャンパスライフデザイン キャリアデザイン 体育理論 体育実技
日本の文化とこころ ボランティア活動 国際理解 徳育倫理 児童文化 保育者入門
ことばの表現 幼児音楽入門（うた） 幼児造形入門

2. 教員の養成に係る組織及び教員の数、各教員が有する学位及び業績並びに各教員が担当する授業科目に関すること

<教員の養成に係る組織>

短大企画本部 (カリキュラム委員会を含む)	全学的な方針の策定、教学マネジメント体制の構築、教育課程の編成と改善
FD・SD委員会	教育方法の改善、教職員の資質能力の向上に関する活動の企画

・教員が有する学位・業績

(教員紹介：https://www.felicia.ac.jp/about_us/teacher_introduction.html)

3. 教員の養成に係る授業科目、授業科目ごとの授業の方法及び内容並びに年間の授業計画に関すること

<教員の養成に係る授業科目>

《幼稚園教諭二種免許状取得の条件》

学則第24条の卒業要件を満たし、次の単位を修得すること。

- ・免許法施行規則第66条の6に定める科目：8単位
 - ・領域及び保育内容の指導法に関する科目：12単位
 - ・教育の基礎的理解に関する科目：9単位
 - ・道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目：4単位
 - ・教育実践に関する科目：7単位
 - ・大学が独自に設定する科目：6単位
 - ・卒業必修科目（教養科目）：4単位
 - ・選択科目：13単位以上
- 合 計：63単位以上

幼稚園教諭二種免許状に関する科目一覧表

免許法施行規則に定める 科目区分等		幼稚園二種免に必要な科目と単位数				
		左記に対応する開設授業科目	単位数			
科目区分	各科目に含める必要事項(領域)			必修	選択	
第66条の6に定める科目	日本国憲法	日本国憲法	2			
	体育	体育理論	1			
		体育実技	1			
	外国語コミュニケーション	英語コミュニケーションⅠ、Ⅱ	2			
	情報機器の操作	幼児教育と情報機器演習Ⅰ、Ⅱ	2			
小計			8	0		
領域及び保育 内容の指導法 に関する科目	領域に関する専門的事項	健康	幼児と健康	1		
		人間関係	幼児と人間関係	1		
		環境	幼児と環境	1		
		言葉	幼児と言葉	1		
		表現	幼児と表現	1		
	保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)	保育内容総論		1		
		保育内容(健康)の指導法		1		
		保育内容(人間関係)の指導法		1		
		保育内容(環境)の指導法		1		
		保育内容(言葉)の指導法		1		
		保育内容(表現)の指導法Ⅰ		1		
	小計			12	0	
教育の基礎的 理解に関する 科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原理	2			
	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校への対応を含む)	教職概論	2			
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)	(教育原理)				
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	保育の心理学	2			
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育(障害児保育)Ⅰ 特別支援教育(障害児保育)Ⅱ	1 1		1	
	教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	教育課程総論(保育の計画と評価)	2			
小計			9	1		
道徳、総合的な 学習の時間等 の指導法及び 生徒指導、教育 相談等に関する 科目	教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)	保育・教育方法技術論	2			
	幼児理解の理論及び方法	子ども理解と相談・援助	2			
	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法	(子ども理解と相談・援助)				
	小計			4	0	
教育実践に関 する科目	教育実習(学校インターンシップ(学校体験活動)を2単位まで含むことができる。)	教育実習指導 教育実習	1 4			
	教職実践演習	保育・教職実践演習(幼)	2			
	小計			7	0	
大学が独自に 設定する科目		幼児音楽Ⅰ	1			
		幼児音楽Ⅱ	1			
		幼児音楽Ⅲ	1			
		幼児音楽Ⅳ			1	
		幼児造形Ⅰ	1			
		幼児造形Ⅱ	1			
		幼児体育Ⅰ			1	
		幼児体育Ⅱ			1	
		自然遊びと生活環境保全Ⅰ	1			
		自然遊びと生活環境保全Ⅱ			1	
小計			6	6		
教職科目	教育職員免許法施行規則における教職科目合計		46	7		
上記以外の 本学必修科目		文章表現法	1			
		キャンパスライフデザイン	1			
		キャリアデザイン	1			
	小計			3	0	
選択科目	選択科目は上記、教育の基礎的理解に関する科目の選択1単位及び大学が独自に設定する科目の選択5単位のほか保育実習科目を除く卒業選択科目のなかから14単位以上を選択すること。		14			
幼稚園教諭二種免許状取得の必要合計単位数			63			

- ・授業科目ごとの授業の方法及び内容並びに年間の授業計画
(シラバス : https://www.felicia.ac.jp/about_us/syllabus.html)

4. 卒業者の教員免許状の取得の状況に関すること

区分	2017年3月卒業	2018年3月卒業	2019年3月卒業	2020年3月卒業
卒業生数	128	127	111	90
免許取得者数	113	108	96	75

5. 卒業者の教員への就職の状況に関すること

区分	2017年3月卒業	2018年3月卒業	2019年3月卒業	2020年3月卒業
卒業生数	128	127	111	90
教員就職者数	8	22	28	8

6. 教員の養成に係る教育の質の向上に係る取組に関すること

本学では教員養成の質の向上のために、以下の取り組みを進めている。

① 教育の質の向上に係る PDCA サイクルを確立している。

P : 学修成果を得るための出発点である授業の設計図 (シラバス) の中で以下の項目を全学的に徹底して実行している。

- 1) 開設科目において教育目標とディプロマ・ポリシーとの関連を明確にしている。
- 2) 授業の目標との関連には、本学の学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)、教育課程の編成方針 (カリキュラム・ポリシー) との関連からみた授業の目的を記入した。
- 3) 講義概要は授業科目が取り扱う学問分野の紹介と共に他の科目との関連性などについても記述し、カリキュラムマップとシラバスの統一性を持たせた。
- 4) 教育の効果を高めるために、アクティブラーニングを推奨し毎回の授業におけるアクティブラーニングの度合い (グループワーク、ディスカッション、フィールドワーク、プレゼンテーション等の比率) を明記した。
- 5) シラバスの質の向上のため、シラバス作成ハンドブックの配布、作成の為の説明会又は研修会の開催、全専任教員によるシラバスの第三者チェックをおこなっている。

D : シラバスに則って授業を実施する。

C : 学修成果到達度テストやレポート等から、成績評価をおこなっている。また、次に示すアンケート等により学修成果を焦点とした査定 (アセスメント) をおこなっている。

- 1) 成績評価や単位取得状況
- 2) 「23 能力」 (学習成果の成長度自己評価)
- 3) 「学修に関するアンケート」
- 4) 「授業評価アンケート」
- 5) 「履修カルテ」
- 6) 「卒業生フォローアップアンケート」
- 7) 「就職先アンケート」により、カリキュラムの内容が適切であるか、特に保育現場の実態と乖離しているか等を分析している。

A : 分析結果から判明した課題や問題解決策を短大企画本部、FD・SD 委員会や学科会におい

て検討し、次学期・次年度の教育課程改善に努めている。さらに課題解決のための FD・SD 研修会の開催、授業力向上のための相互授業参観、外部研修会の参加などをおこなっている。

② 査定の手法を定期的に点検している

IR 委員会を設け、各アンケートの分析をすると共に、学修成果を焦点とする査定の手法について、定期的に見直しを行っている。

③ 教員養成における実践的な指導ができる人材の確保として、教育・保育現場の経験がある教員の採用を積極的におこなっている

④ 地域・社会の各種団体との連携をおこなっている

ボランティア活動を授業として位置づけ、地域の老人福祉施設「ひまわり」（デイサービス）と協定し、利用者と交流を図っている。また附属幼稚園の家族を短大に招き、たけのほり大会を毎年企画している。「ボランティア活動」の授業は課題解決型学修（PBL）が中心であり、学生が主体的に活動内容を企画し、学生自身が何をすべきか自ら考え、行動する内容になっている。

⑤ 認定こども園 フェリシア幼稚園との連携により実践力の養成を重視している

附属園であるフェリシア幼稚園との連携により、実習の前の事前研修、園の行事のボランティア、たけのこほり大会の企画、お誕生日会の企画と発表など、学生がこどもに接し、こどもと共に成長する機会を積極的に取り入れている。